ひめゆり平和祈念資料館

資料館だより

第69号
2022.5.31

中庭に咲くユリの花

もくじ

ご支援のお礼とコロナ禍の新たな取り組みについて 1
オンライン平和学習の実施状況 2
資料館トピックス 4
「第４回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」受賞作品決定 / 企業や団体と連携して平和学習プログラムを開発 / 映像を作るためのワークショップ開催 / 特別展「ひめゆりとハワイ」終了、県内での巡回へ
資料館の動き 6
2022（令和4）年度のイベント・事業 / 統計に見る2021年度 7
本棚（仲程昌徳） 8
仲宗根政善日記抄（64） 9
ひめゆり平和祈念資料館　ご利用案内 11

新型コロナウイルス感染症予防対策を行っています

マスク着用・手指消毒・検温に
ご協力ください

ご支援のお礼とコロナ禍の新たな取り組みについて

たくさんのご支援、ありがとうございました

コロナ禍により当館の 2021 年度入館者は 2019 年度に比べて 81％減少しましたが、窮状を知ったみな様から昨年度 85,419,644 円のご寄付を寄せていただきました。これは年間運営費の 65％に上り、大きな助けとなっております。みな様のご支援に心より感謝申し上げます。

２月のまん延防止措置の解除以降、修学旅行や一般の方の入館が増え、少し活気は戻っております。しかしながら、新型コロナの感染はまだまだ収まらず、入館者はコロナ禍前の 30％しかなく、厳しい状況に変わりはありません。当館では経費節減や資産の取崩、低利子の借入などの経営的努力にも取り組んでおりますが、引き続き、みな様のご支援を心よりお願い申し上げます。

コロナ禍の中の新たなチャレンジ

修学旅行などの学校団体の入館も、コロナ禍前の 1 割前後に過ぎません。そのような状況のなかでも平和学習を継続してもらうために、当館では①「ひめゆりの沖縄戦」（平和講話）、②「絵で見るひめゆりの証言」、③「オンライン展示ガイドツアー」の３つのオンラインによる平和学習プログラムをスタートさせました。2020 年度の開始以降、61 件実施しています。修学旅行が中止になってもなんとか平和学習を実施したいという学校がたくさんあることに心強さを覚えます。

コロナ禍がきっかけとなり、他の団体や企業との協同も始まりました。ガイド団体などで組織する沖縄ピースリンクプロジェクトとの共催で「リニューアルから半年 沖縄平和学習におけるひめゆり資料館の活用案」というオンライン企画を全国の学校教員や旅行会社を対象に実施しました。また、旅行社との協同でオンライン修学旅行のプログラムの開発を行い、（公社）青年海外協力協会沖縄との協同でディスカッションを取り入れたプログラム開発を進めています。

今後も継続して、多くの方々と関わりながら、よりよい平和学習が実施できますよう、取り組んでいきたいと考えております。

これからも伝えていくために

開館以来、当館が伝えていることは変わりません。元ひめゆり学徒のみなさんが沖縄戦の体験を通して心に刻んだ、戦争がいかに悲惨なものであるか、命がいかに尊いものであるか、平和がいかに大切なものであるかということです。

元ひめゆり学徒のみなさんからひめゆり平和祈念資料館を継承した私たちは、彼女たちが心に刻み伝え続けてきたことをいろいろな工夫や試みを通し、新しい世代に届けていかなければならないと思います。

オンライン平和学習の実施状況

当館の職員（説明員・学芸員）によるオンライン平和学習がスタートして 1 年余りが経ちました。

コロナ禍で来館できない学校が増えるなか、修学旅行が中止になった場合の学習の代案を探す旅行会社の動きがあったこと、事前学習（平和学習）の積み重ねを無駄にしないために何かしたいという学校のニーズがあるとわかったことから、学校を対象に有料のオンラインの平和学習を始めたのが 2020 年 11 月でした。2021 年 9 月には、「ひめゆりの沖縄戦（平和講話）」、「絵で見るひめゆりの証言」、「オンライン展示ガイドツアー」の３つのメニューを「オンライン平和学習」として、学校、旅行会社にリリースしました。

開始以来の実施件数は、61 件（2022 年 3 月末）となりました。これまでの取り組みの成果や課題などを報告します。

1. オンライン平和学習のメニュー（有料）

①平和講話（ひめゆりの沖縄戦）

ひとりの元ひめゆり学徒に注目して、その方の戦争体験を紹介する内容です。証言映像や写真などを使いながら、当時の学校生活、沖縄戦の体験、沖縄戦を生き残った後の体験についてお話しします。

②絵で見るひめゆりの証言

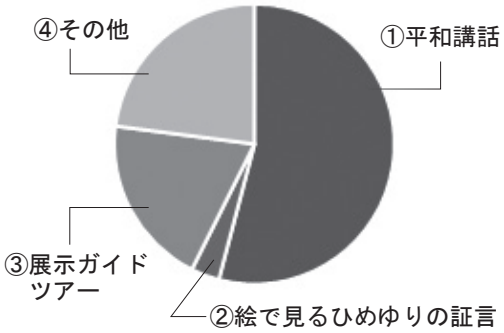
体験者と一緒に作りあげた沖縄戦の絵を使って、ひめゆり学徒の沖縄戦体験を紹介します。絵を見ながら、描かれた場面を読み解き、絵の背景にある当時の生徒の気持ちや考え方、体験者が伝えたかったことなどを解説します。

③オンライン展示ガイドツアー

2021 年 4 月にリニューアルした展示室を撮影し、その映像をご覧いただきながらガイドします。展示制作を担当した職員が、実物資料やパネルのイラストなどを紹介しながら、ひめゆり学徒隊の戦争体験をお伝えします。

2. オンライン平和学習の実施件数

	20 年度	21 年度	合計
①平和講話	9	24	33
②絵で見るひめゆりの証言	−	2	2
③展示ガイドツアー	−	12	12
④その他	4	10	14
合計	13	48	61



※ 2020 年度は 2020 年 11 月～ 2021 年 3 月（5 ヵ月）
※上記のプログラムはすべて資料館の職員（説明員・学芸員）が担当。
※「その他」には、学校の要望に応じて対応したものや講演等が含まれます。

3. 実施した学校の先生や生徒の反応

・昨日急遽修学旅行の中止が決定し、生徒は勿論、教員も非常に残念な思いでおりました。この講演も生徒はどのように受け止めるのだろうかと正直不安な思いでおりましたが、生徒の受け止めは大変良かったと思います。ワークシートの感想からも伝わってきました。（平和講話／高校教員）
・絵で戦争を伝えるのもとてもいいと思いました。写真がない場所でどんなことがあったのかも凄く伝わってくるんで。（絵で見るひめゆりの証言／中学生）
・子供たちは「沖縄とつながる！」と目がきらきらしていた。「死体埋葬やうじ虫をとるなどの仕事は、傷ついた人を見なくてはいけないので、見ている方もすごく苦しかっただろうなと思いました」という感想が出た。かなりリアルに沖縄戦をイメージしながら学習をすることができた。（展示ガイドツアー／小学校教員）
・ガイドがあると展示の意図や体験者の思いがよく伝わってきました。自分で見学するだけでは読み取れないこともありますし、高校生ならなおさらと思います。体験者の方の声が盛り込まれているのが良かったです。特に、戦後の孤児院の話はとても響きました。写真の背景にある真実が伝わると惹き付けられるなと思いました。（展示ガイドツアー／高校教員）

展示ガイドツアーの映像を撮影

4. 講師（説明員・学芸員）の感想、今後の課題

講師を務める説明員・学芸員は、下記のような感想や今後の課題を挙げています。

・学校と沖縄がオンラインでつながることによって、かえって生徒との距離がぐっと近づき、生徒が集中して聞いていると感じる。
・各教室のスクリーンで視聴すると写真や映像がよく見えるようだ。
・生徒がのびのびしている。いつもの教室で自分の席に座っているためか、リラックスして話を聞いている。
・質疑応答の時間が取れるようになり、沖縄戦や沖縄に関する多様な質問が出るようになった。
・修学旅行前の事前学習としてオンライン平和学習を実施する学校が出ている。事前に概要がわかっているので、実際に資料館を訪れた時に展示への理解がしやすくなるのではないか。
・展示ガイドツアーは、見せたい展示や話したいことがたくさんありすぎて、時間が長くなってしまう。ガイド内容を絞り込むのが課題。
・学校の先生方から、展示ガイドツアーで写真や実物に焦点を当てるときには、「これは何をしていると思いますか？」などの問いかけをして、生徒が自分なりに考える時間を取ると良いというアドバイスを受けた。

資料館トピックス

◆「第４回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」受賞作品決定

「第４回“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」の選考委員会が２月 15 日に実施され、ひめゆり映像賞２作品と特別賞１作品が選ばれました。応募作品のレベルが高く、甲乙つけがたかったため、今年度は特別に２作品が映像賞に選定されました。一眼制作シネマさんの「ひめゆりとの出会い」と team AY さんの「未来へ繋がる食」です。前者は県外出身の女性がひめゆりや沖縄戦をもっと知ろうと動きだす内容であり、後者は戦前や戦中の食生活から沖縄戦を見直そうとする作品です。

選考委員からは「もやもやを抱えながらも知ろうとする姿が現代の人にも共感を呼ぶ」「食を通して沖縄戦に迫るアプローチや着眼点がよかった」などの感想がありました。また、特別賞には翁長巳酉さんの「失われたクガニダマ」が選ばれました。映像作品は、資料館の YouTube チャンネルにてご覧いただけます。今年度は、映像コンテストの活動や受賞作品を広く知ってもらうために、はじめて受賞作品の表彰式と上映会を開催しました。

資料館の YouTube ページはこちらから→

ひめゆり映像賞：「ひめゆりとの出会い」一眼制作シネマ

ひめゆり映像賞：「未来へ繋がる食」team AY

特別賞：「失われたクガニダマ」翁長巳酉

◆企業や団体と連携して平和学習プログラムを開発

新型コロナの影響が長引く中、資料館では、2021 年８月頃から企業や団体と連携して、お互いの強みを生かした平和学習プログラムの開発に取り組んでいます。

・「ANA で行く！オンライン修学旅行～沖縄編～」

沖縄の歴史と文化、自然についてのわかりやすい解説と美しい映像、現地との中継を通して学ぶプログラムです。ひめゆりの沖縄戦のパートに当館の職員が登場し、オンラインで直接やりとりします。

・「ひめゆり平和祈念資料館×おきなわ世界塾　平和学習探求プログラム」

当館職員がオンライン事前学習を担当します。専用のワークシートを使った展示見学の後には、ワークショップの経験が豊富なおきなわ世界塾のスタッフがディスカッションなどの事後学習をサポートし、ひめゆり学徒隊の体験を通して、今につながるテーマや、どのように平和を築くかを考えます。

（問い合わせ先：（公社）青年海外協力協会（JOCA）沖縄事務所教育旅行班　電話 080-8020-8731）

◆映像をつくるためのワークショップ開催

2021 年 11 月、「“ひめゆり”を伝える映像コンテスト」の関連企画としてはじめて映像制作のワークショップを開催しました。MONGOL800 のミュージックビデオなどを手がける映像プロデューサーの山城竹識さんが講師を務め、「クリエイティブとは？」というプレゼンテーションを行いました。大学生、大学院生、社会人などさまざまな年代の方が参加し、山城さんが関わった映像作品を視聴し、映像作品をつくるためのアイディア集めや構成づくりの基礎を学びました。プロの映像クリエーターの言葉は実践的で、映像をつくるヒントがたくさん得られる内容でした。ワークショップの参加者からコンテストへの応募が 3 作品もあり、ワークショップ開催の成果を感じています。

第 1 回目ワークショップの様子

◆特別展「ひめゆりとハワイ」終了、県内での巡回へ

2021 年 10 月から開催した特別展「ひめゆりとハワイ」は 2022 年 2 月 27 日に無事に閉幕しました。多くのみなさまにご来場いただき、「ひめゆりとハワイの関係をはじめて知った」「学校でも習わなかった『その後』を知る方法としてよかった」などの感想が寄せられました。2019 年に「ひめゆり学徒隊・沖縄戦の歴史を海外に伝える展示プロジェクト」がはじまり、3 年目にハワイ現地での開催を目指しておりましたが、新型コロナウイルスの影響により、まずは資料館での特別展開催となりました。また、コロナ禍で足を運ぶことが難しい状況を考慮し、ハワイをはじめとする国内外の多くの方々に見てもらうために、特設ホームページを開設し、ウェブ展示として情報を公開しました。2021 年度は、開催期間中にオンラインイベントを実施、JICA 沖縄国際センターにて展示の紹介パネルを設置、報告書の作成など、館外への情報発信にも取り組みました。2022 年度は、沖縄県立図書館など、県内各地で巡回展としてハワイ展を開催する予定です。

特別展「ひめゆりとハワイ」展示の冒頭

資料館の動き

新型コロナの影響でオンライン開催のイベントや講演会への参加が増えました。

2021 年

11 月 20 日　沖縄県主催「うまんちゅぴーすふるシンポジウム」に普天間朝佳館長登壇

11 月 20 日　「平和のための博物館・市民ネットワーク全国交流会」にて学芸員の古賀徳子が「展示リニューアルとコロナ禍の活動」について報告（オンライン開催）

11 月 24 日　沖縄県平和祈念資料館主催 「令和３年度　平和への思い（ウムイ）発信・交流・継承事業」に協力。海外参加者とオンラインでつないで展示ガイドツアーや講話を行った

12 月　4 日　開発教育協会（DEAR）主催「SDGs 教材づくり実践フォーラム～教材づくりをふりかえる」（オンライン開催）に学芸員の古賀徳子が講師として参加

12 月 28 日　ひめゆりをテーマにしたスピーチで英語弁論大会県最優秀賞受賞などの報告で糸満中学校生徒来館。仲程昌徳理事長、普天間朝佳館長対応

2022 年

2 月 20 日　神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）登録ボランティアを対象に普天間朝佳館長によるオンライン講話「ひめゆり―次世代へ 戦争体験の継承の取り組みとリニューアル」を実施

3 月 26 日　豊中市主催　豊中市・沖縄市兄弟都市交流事業講演会「生き残ったひめゆりの生徒たち―戦争体験を抱えて生きる―」（オンライン開催）で説明員の仲田晃子が講演

4 月　2 日　東本願寺真宗大谷派主催「全戦没者追弔法会シンポジウム」（オンライン開催）に普天間朝佳館長がパネリストとして登壇

糸満中学校大城直之校長、崎浜陽愛さん、東恩納沙奈さん、普天間館長（左から）

「平和への思い（ウムイ）発信・交流・継承事業」での講話

2022（令和 4）年度のイベント・事業

当財団では、今年度、下記の事業およびイベントを予定しております。

○イベント

・教員向けオンライン講習会　　・ガイド向け講習会　　・報道機関向け講習会

・アニメ「ひめゆり」特別上映会

○事業

1．ひめゆり平和祈念資料館の管理・運営事業

・復帰 50 年記念トークイベント（2022 年 7 月予定）

・証言映像の上映会・トークイベント（2022 年 8 月予定）

（1）教育普及活動（平和講話・説明員トーク・オンライン平和学習など）

（2）ひめゆり学徒と沖縄戦の資料収集・整理保存・調査研究

（3）出版　『新ガイドブック』、『感想文集第 33 号』、『年報第 33 号』、「資料館だより」第 69 号・70 号

（4）ひめゆりの塔の管理及び慰霊祭の挙行

（5）ひめゆり平和研究所

・巡回展「ひめゆりとハワイ」（県内各地）

・「第 5 回 “ ひめゆり ” を伝える映像作品コンテスト」の実施

（6）その他

統計に見る 2021 年度

2021 年度は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による、全国的な修学旅行の延期やキャンセルが続いた。入館者数は前年度比で約 41％の増加。しかし、コロナの影響が少なかった**2019 年度**の 491,345 人と比較すると**約 81％減**となり、入館者数の減少は依然つづいている。

1．入館者状況

①有料

＊ 2021 年度入館者数　**93,936 人**

21 年度 66,532 人より **+27,404 人**
うち外国人 594 人、前年度比＋ 51 人

＊開館以来 33 年間で 32 番目の入館者数。平均入館者：7,828 人／ 1 か月、265 人／ 1 日。
リニューアル工事のための休館（4/1-4/11）を除く 354 日。

＊開館以来 33 年間の累計は 23,376,060 人で、年平均入館者数は 708,365 人、1 日平均は 1,980 人。
1989 年度の開館期間は 9 か月間。

＊ 2021 年度より慰霊の日は有料入館とする。

②無料

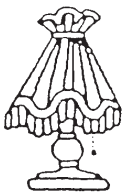
7,065 人

＊団体（県内学校団体・特別支援学校・一般団体含む）	49 団体	2,959 人
＊学校団体引率者		1,767 人
＊修学旅行下見	313 校	813 人
＊個人免除者（身障者手帳等提示の方）		1,526 人

※県内学校団体は入館料免除のため、総入館者数には含まれない。ただし、学校団体の総数及び人数には含まれる。

2．学校団体入館状況

2021 年度の修学旅行等学校団体入館数は 221 校、27,073 人。2020 年度の 121 校、15,803 人に比べ、**＋ 100 校、11,270 人**。全体の割合としては、小学校が 24 校で 11％、中学校が 49 校で 22％、高校が 148 校で 67％。前年度と比較すると約 71％（人数）の増加だが、**2019 年度**の 1838 校、246,049 人と比較すると**約 88% の減少**となっている。



本　棚

仲程　昌徳

石原昌家『国家に捏造される沖縄戦体験 ―準軍属扱いされた０歳児・靖国神社へ合祀』（2022 年、インパクト出版会）

一九四五年三月三十日 *1、深夜、三角兵舎での卒業式が終わったあと、「生徒としての身分を失った者の処置を決めなければならない」ということになり、協議の結果「女学校の卒業生は、師範に入学を許可された者を除いて軍属に転換」し、「師範卒業生は教育要員であるからそのまま学徒として取り扱う」ことに決め、翌日にはこの決定により「女学校の卒業生はそれぞれ下命を受けて軍に引き渡された」と「ひめゆり学徒隊」の学徒隊長西平英夫は書いていた。

四月半ば、米軍の攻撃が激しくなり、西平は「生徒を各壕に配置する」編成替えを断行。そこで再び処遇が問題となり、「軍属」として「軍と一体」となったほうがいいのではないかと考えられたが、生徒たちは、「看護婦との対抗意識から、学生であるとの誇りをあくまで堅持し、学生の名のもとによろこんで国難に殉じていきたいと主張してゆずら」ず、教員のなかにも生徒側に立つ者がいて、結局「軍属転換は行われないことになった」という。

四月二十六日、生徒に初の犠牲者が出て、西平は軍と交渉し、陸軍内規にある「一般民ニシテ軍ニ協力セルモノニ対シテハ其ノ死傷ノ場合軍属トシテ取扱フ事ヲ得」の条項に則り、同日「陸軍軍属ヲ命ズ　雑仕但シ看護婦勤務日給一円十銭」の辞令を出してもらう。戦闘中でもあり形式的なものであったが「後日のことを思って、このような取り扱いをした」といい、「以後はすべてこの例によることになった」と書いていた。

厚生省は当初「一七歳以下の軍人は、法規の上ではないとした。従って通信兵等、一七歳未満の者は、軍人扱いにするわけにはいかない。女子中等学校生の軍属扱いも認められないという意向を示した」（仲宗根政善「遺骨を背負うた生涯――金城和信氏を悼む」『石に刻む』1983 年、沖縄タイムス社）という。そこで沖縄側は「早速、沖縄戦没学徒援護会を結成」し、以後「本土政府との折衝」にはもっぱら金城和信があたった。

地元紙で、はじめて「援護法制定の動き」が報じられたのは一九五二年一月。本書は、「沖縄戦没者援護会」の活動はもちろんのこと、新聞報道後の「援護法」をめぐる動きを詳細に追っていくと同時に、「日本政府の沖縄戦認識の捏造」を「戦闘参加者概況表」を事例にして、具体的に解き明かしていく。

金城和信は、「男女中等学校生徒に援護法を適用する」よう国会で発言したさい、「一般住民の戦場動員についても言及」していた。金城の国会での発言を受け、厚生省は「一般住民の戦場体験を詳細に調査」し、「沖縄戦における戦闘参加者の処遇要綱」を決定し、「それに準拠して戦闘参加者申立書の提出事務」を開始していくが、「戦闘参加者概況表に該当するためには、一貫して戦闘に協力したということが必須条件で」、それを満たすために「捏造」が行われていくことになる。

申立書が、受理されるためには、壕を追い出されたのを、「壕を提供した」というように「証言とはまるで反対のことを書かないといけない」ということがあって、それがさまざまな場面に及んでいった。さらに看過できないのは、「援護法で準軍属に認定されると靖国神社に合祀され」ていったことであるとし、石原氏は、靖国神社の役割を摘記していくとともに、合祀を認めることは「戦争被害者である家族らが加害者と同列に置かれ」かつ「非民主的・反平和的な政治理念と歴史観を広め、強制する手段として利用されることを意味する」と指摘する。

本書は、「捏造」の構造を解き明かした論述とともに、あと一点、石原氏がなぜこれまで使用されてきた「集団自決」という用語に代え、「強制集団死」という表現をするようになったか、その道筋がよくわかる論述が収められている。「教科書検定事件」を通して鮮明になっていった事態を切り開いていく地平で生まれてきた用語の変更が、沖縄戦の認識を新たにさせるものになったのは間違いない。

石原氏は、長期に及ぶ聞き取り及び膨大な史資料の渉猟によって沖縄戦と関わる大切な問題を明らかにしてきたわけだが、それだけに「沖縄戦とは何だったのか、住民被害の元凶は何だったのかという『沖縄戦の真実』について、メディアも被害住民もいまだに事実認識が共有されていない」と直言する。

石原氏が、旧著を「改訂」して出したのは、痛憤が収まらないからである。沖縄は正念場を迎えているのである。

＊ 1 一九四五年三月三十日 : 卒業式の日付は『ひめゆりの塔 学徒隊長の手記』（西平英夫 , 雄山閣 ,2015）より引用。ひめゆり平和祈念資料館の展示では、元ひめゆり学徒の証言をもとに 3 月 29 日としている。

仲宗根政善日記抄（64）

［1980 年］六月〔日付記入なし〕

宮城喜久子さんからの電話。一高女の桑江ヨシさんの写真が、「ひめゆりの塔をめぐる人々の手記」にぬけているので、遺族の方が大変がっかりしておられたとのこと。そんなことがありはしないかと､最初から気になっていた。親にとっては、ひめゆりの塔に名が刻まれると同じような気持でおられるにちがいない。仏壇に遺影をかざっておくと同じように、あの写真を見て下さっているのであろう。

写真のとりちがえがあるのではないかとも気になる。一人の欠けた者もなく、正確にかかげることが出来れば、本望である。

喜屋武断崖に追いつめられて、いよいよ死に直面したとき、誰にも知られず、岩かげに朽ちて行くかと、孤独感にたえなかった。親からも、兄弟姉妹からもお友達からも、いつまでも忘れられずにいたいというのが、なくなった方方の真情であるにちがいない。

二十年六月十三日の夕暮、生徒たちは、喜屋武断崖の岩の上に車座になって最後の晩餐をした。食糧のあるだけを出した。もう明朝から食べる一粒のお米もなかった。食事が終って、淡い月影にむかって歌った。やがて歌声がやんで、沈黙がつづいた。それから自決の話になった。上級生は皆が抱き合ってその中で持っている三箇の手榴弾を同時に栓をぬけば、十三名が自決出来ると主張していた。下級生はじっとその話を聞いていて眼の色をかえていた。自決の話がやんで、また沈黙がつづいた。その時、私は、先刻野原で拾った石のみを生徒に示した。この石のみで何をしたいと思うかと聞いたが、誰一人答える者はいなかった。岩肌に皆の名を刻もうと思うと言うと、皆の眼はかがやいて、先生どこに刻むのですかと、しきりに聞いて、私もまだどこに刻むかはきめて〔い〕なかった。ここで皆が死んだということをはっきり親に知らせたい。これが最後の念願であったのである。

あの時のことが、いつまでも忘れられない。

石碑が何だ、という者がいるかも知れない。しかし、それは無限の闇黒の底をのぞく小さい節穴である。この節穴から遠久（ママ）に消えて行く者の後姿がの〔ぞ〕けるのである。幾億年もたった星さて（ママ）影をひいて永遠に消えて行く。はかない人間の生命の消え行く光はもっとかすかである。それを人々は追い求める。こうして消えて行く愛児をもう一度懐に抱いて温めたいのである。闇の彼方へと消えて行く光を親はいつまでも追い求めているのである。この小さい節穴は、親にとって消え行く光をのぞく唯一のものである。

喜屋武フジ子さんの三十三年忌が、一昨日営まれたようである。宮城喜久子さん以下、十名の者がお弔いに行ったらしい。母親は、孫たちと暮しているらしい。ご主人もフジ子さんもなくして、戦後は悲嘆にくれた。娘のお友達が三十五年もたって訪ねてくれたのに涙を流して喜ばれた。宮城さんが、「ひめゆりの塔をめぐる人々の手記」を仏前にお供えしてくれたようである。

［1980 年］六月十八日

知念高校の先生からの電話。戦争体験を生徒が聞きたがっているが、お時間の都合を聞きたいとのことであった。前にも商業高校の生徒がわざわざ家に来て、戦争体験を録音して帰ったことがあったので、もし来るのでしたら、ひめゆり学徒隊のことを詳しく話し〔て〕あげ〔たい〕と思った。電話はすぐ生徒にかわりますからといって、代表らしい生徒が受話器をとった。時間がありませんで、電話でお聞きしますが、「いはまくらかたくもあらむやすらかにねむれとぞいのるまなびのともは」という歌はどういう意味ですかという。その意味ですかと尋ねると、そうですという。「いはまくらかたくもあらむやすらかにねむれとぞいのるまなびのともは」ですね。その意味はおわかりでしょう。おわかりになりませんかと念をおしたが、その意味だという。電話なので、私はその真意をつかみかねた。明日討論会があるのでとい

う。

私はどう返事して良いか返答に窮してしまった。電話の上でもあるし、どういうことを聞きたがっているかはかりかねた。しかたがないので、いはまくらの歌碑を知っていますかと聞いたら知らないという。ひめゆりの塔の柵の中の右隅にあります。実はあの歌は戦争の翌年の四月七日、ひめゆりの塔の除幕式に私は、最後に弔辞を読んだのですが、その弔辞の最後によんで乙女らのみ霊にささげたのです。はじめての慰霊祭でもあり、附近の卒業生も集まり、真和志村民も大勢あつまっていましたが、皆その歌に涙ぐんでいるようでした。それで、その歌を時の真和志村長が石碑に刻んでくれたのです。書かれたのは、真教寺の田原惟信さんです。

今度「ひめゆりの塔をめぐる人々の手記」という本が出ていますが、おわかりですか」「いいえ知りません」という。その本の中にもくわしく書いてありますから、お読みなさいと教えたら、ふかくうなずいて「はい」と答えていた。

この歌は、実は除幕式の朝、私は魂魄之塔のうらの浜べで浮んでつくったのです。魂魄之塔は知っていますか。「いいえ知りません」ひめゆりの塔の南の海岸にあります。あの塔は、当時の真和志村長金城和信氏が建立したので、四、五千以上の遺骨が収骨されているのですが、金城村長は、遺骨の散乱している野畑に鍬をいれる前に、先ず山野を浄めようと、村民の先頭に立って、遺骨の蒐集を始めました。蒐集した遺骨をおさめてあるのが魂魄之塔です。私は除幕式の朝、この魂魄之塔の裏の海岸に出てみました。遺骨を蒐集して塔におさめたという直後なのに何という凄惨な情景であったろうか。白浜によせて来る白波にさらわれながら無数の白骨が渚にがらがらと音をたてているのでした。「海行かばみづくかばね山ゆかば草むすかばね大君のへにこそ死なめかえりみはせじ」とはいうものの、何といういたましい情景であろうか。岩の上にかけあがると、そこにもかずしれないかばねがかさなり合ってころがっているのです。「いはまくらかたくもあらむ」と私の詠んだのは、その実感があったからです。それと、洞窟の岩の上に幾日も幾日も艦砲弾をさけながらじっと坐っていることは、たえがたい苦痛でした。かたくもあらむということばは、その実感があったからです。

二百名近くの生徒をなくして、私の感じたことは、生命がもっとも大切なことです。生命の中にこそ人間のあらゆる価値がある。人が人を殺す戦争はいかなる理由によっても肯定されない。貴方のようなわかい方々を引率して私は戦争に出ました。……

「鉄の暴風」をお読みになりましたか」「いいえ」「その中にいはまくらの曲が出ています」私はいろいろと電話ででもよい説いて上げようとせきこんでいった。

生徒は、時間がありませんので失礼しますと、電話をきってしまった。

平和の教育をするための、先生の計画であろう。私は非常なショックを受けた。いはまくらの歌碑も知らず、魂魄之塔も知らない。鉄の暴風雨（ママ）もしらない。時間がありませんから電話でおうかがいしますと、先生の指示で、電話で話を聞く。電話が長びくと、もう時間がありませんと、電話をきる。平和教育、特設授業というこういう教育でいったいどれほど戦争の悲惨を知らせ、平和をつくる意欲を高めうるのであろうか。表面的なことばのやりとりの討論会を生徒にやらせて、それで平和教育をしようとする。そのかるがるしさ、教育の無力さ、切られた電話に耳をあてながら、深淵につきおとされたようなむなしさを感じさせられた。

（次号につづく）

※読みやすさを考慮して、字句を補った箇所がある。
※〔 〕は編集で補った。
※旧字体は新字体へ変更し、明らかな誤字は改めた。

ひめゆり平和祈念資料館　ご利用案内

◆ 開館時間、料金、アクセス

1．入館受付：午前9時～午後5時（閉館は午後5時 25 分）　**2．休館日**：年中無休

3．入 館 料：①大人 450 円　②高校生 250 円　③小・中学生 150 円

団体（20 名様以上一括払）①大人 400 円　②高校生 200 円　③小・中学生 110 円

※ 2021 年 4 月 12 日より、入館料が改定されました。

4．交通案内

【路線バス】旭橋・那覇バスターミナルから［89 糸満線］で約 30 分、糸満バスターミナルで［82 玉泉洞糸満線］に乗り換え約 15 分、ひめゆりの塔前下車

【モノレール・路線バス】モノレール那覇空港駅から赤嶺駅まで約4分、赤嶺駅前（糸満・豊崎向け）バス停で［89 糸満線］に乗車し約 20 分、糸満バスターミナルで［82 玉泉洞糸満線］に 乗り換え約 15 分、ひめゆりの塔前下車

【車】那覇空港より約 30 分

◆ 団体のご見学について

新型コロナウイルス感染症対策のため、当面の間、**見学は予約制となります。必ず事前にご予約ください。**

◆多目的ホールご利用のご案内

ひめゆり学徒隊や沖縄戦について学ぶための平和講話(約 40 分)、ビデオ視聴(証言ビデオ「平和への祈り―ひめゆり学徒の証言」約 25 分、アニメ「ひめゆり」30 分）を事前予約制で承っております。ご予約は、資料館ご見学の団体に限ります。ご予約時間は下記受付時間内で調整いたします。お電話にてホールの空き状況を確認後、ＦＡＸかメールにて申込書をお送り下さい。

【講話 or ビデオ受付時間】9:05 ～ 16:00（最終 16:00 開始）

※年末年始（12 月 30 日、31 日、1月1日～3日）･旧盆（旧暦7月 13 日～ 15 日）･慰霊の日前後（6月 21 日、22 日、24 日）は、講話の予約はできません。ビデオ視聴のみ受付可能です。

※慰霊の日（6 月 23 日）は、講話・ビデオともに予約はできません。

※ホールの収容人員は約 200 人（席）です。

※多目的ホールは講話及びビデオ視聴以外の目的（セレモニー等）には利用できません。

※予約時間に遅れた場合、予約状況によってはキャンセルさせて頂くこともございます。

※現在、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら開館しております。多目的ホールのご利用方法につきましても、感染症の拡大状況に応じて変更がある場合がございます。詳しくは、直接お電話にてお問い合わせください。

◆オンライン平和学習のご案内

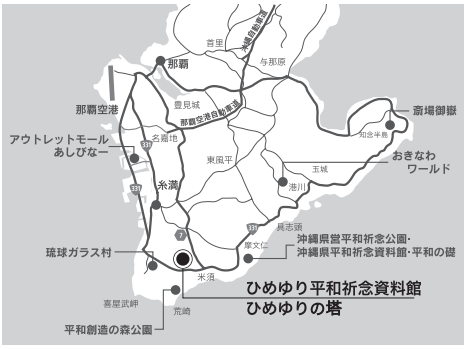
コロナ禍で沖縄へ足を運べない学校団体や修学旅行の事前学習として、オンライン平和学習の予約を承っております。
詳しくは資料館までお問い合わせください。

【オンライン平和学習メニュー】

所要時間：50 ～ 60 分　　人数：20 人以上

①ひめゆりの沖縄戦（平和講話）　料金：1回　15,000 円（税込）

②絵で見るひめゆりの証言　料金：1回　15,000 円（税込）

③オンライン展示ガイドツアー　料金：1人　小中学生 310 円　高校生 400 円　大人 600 円（税込）

ひめゆり平和祈念資料館 資料館だより 第 69 号
2022（令和 4）年 5 月 31 日発行
編集・発行：公益財団法人沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立
ひめゆり平和祈念資料館
〒 901-0344　沖縄県糸満市字伊原 671-1
☎ 098-997-2100　fax098-997-2102
H　　P：http://www.himeyuri.or.jp/
Facebook：https://ja-jp.facebook.com/HIMEYURI.PEACE.MUSEUM/